

「高知県橋梁会平成 23 年度第 1 回研修会」報告

高知県橋梁会理事

西川 準二

土木学会四国支部と高知県橋梁会の共催による平成 23 年度第 1 回研修会が、去る 2011 年 4 月 19 日(火)に、高知市本町にある高知会館の「飛鳥の間」で開催された。

開催に先立ち、去る 3 月 11 日の東日本大震災でお亡くなりになられた皆様方のご冥福をお祈りし、1 分間の黙とうが行なわれた。

13 時からの研修会では、会員や関係企業等から 6 テーマの講演があった。新年度を迎え色々と忙しい時期にもかかわらず 88 名の参加があった。

研修会后、高知県橋梁会の通常総会が開かれ、22 年度の事業報告及び監査報告が満場一致で了承された。次に 23 年度の事業計画案、収支予算案、役員改選の議事が行なわれ承認された。また新規会員加入として、長崎テクノ(株)、(株)ケーティービー、昭和機械商事(株)の 3 社の紹介が行なわれた。

研修会 (13:00 ~ 17:00)

研修会に先立ち右城会長より開催の挨拶が行われた。

東日本大震災により亡くなられた方へのお悔やみ、被災された方々へお見舞いを申し上げ、一日も早い復興の念を祈るとともに、高知県橋梁会から義援金を送ったとの報告があった。

また、高知県橋梁会の県内土木技術者や学生を対象とした技術力向上支援活動に対して、土木学会四国支部から高知地域貢献賞を受賞することになったという嬉しい報告があった。



右城会長による開会の挨拶

最初の講演は、自民党高知県連組織広報委員長の高野光二郎氏。高知県内の団体ボランティアによる特殊建設機械を使って行う救援活動の調整と人的支援の調査を行うために、3 月 25 日 ~ 28 日にご自

身が震災地である宮城県に入られ、そこでの体験談を、地震災害調査緊急報告として発表して頂いた。

VTRを見ながら現地の想像を絶する被災状況やご自身が行なったボランティア活動や体験談を聞き、我々聴講者も涙が込み上げてくる思いであった。今回の大地震で我々の防災意識の一層の高まり、最悪の事態を想定して予め準備して態勢を整えること、緊急支援物資の受給体制の根本的な見直しの必要性等を指摘された。また、高知県に於いて真っ先に行わなければならないことは、山や高架等へ逃げるためのルートを造ることであると力説して講演を終了した。(13:10 ~ 13:40)



最初の講演をされる高野光二郎氏

2 番目の講演は、元・日亜鋼業(株)技術本部長の長谷川真道氏。「製品開発における失敗談・亜鉛

と鉄」と題し、鉄の防食について、亜鉛メッキの種類や耐用年数等について長年携わってきた経験談を交えながらお話を頂いた。

亜鉛メッキの方法として先メッキと後メッキがあり、後メッキは曲げ加工で剥離等の弱点があるため先メッキを推奨することや、同じ製品の中で使用される部品でもメッキのやり方が違うことへの疑問等を報告された。

落石防護網では、ワイヤー部にはランクの高いメッキをしているが、金網部にはランクの低いメッキを使用されているため腐食は金網部が先行されている事例を説明された。この件について熱心な質疑が行われた。(13:45~14:25)



長谷川真道氏による講演



熱心に聴講される参加者

3番目の講演は、昭和機械商事(株)補強土グループの奥西一裕氏。「鎖メーカーが開発した鎖(チェーン)を利用した補強壁工法」と題し、工法の概要の説明がなされた。

各部材紹介の後、壁面材の曲げ試験やチェーン、支圧板の引抜試験結果の紹介および工法の特長、施

工事例の説明等が行われた。受講者からは、仕様マニュアルは何か、支圧板と土の拘束効果、最下段のチェーンの長さや壁高が高くなった時に使用されるチェーンの長さが同じでよいのか等の活発な質疑が行われた。(14:25~15:05)



奥西一裕氏による講演



活発に質問する受講者

4番目の講演は、日建工学(株)技術部長の中西敬氏。「アミノ酸を混和した環境新素材・環境活性コンクリート」と題し、コンクリートの中にアミノ酸を混和して行なった様々な実証実験の紹介がなされた。

環境活性コンクリートは、日建工学(株)・味の素(株)・徳島大学での共同研究により開発され、アミノ酸が混和されたコンクリートを海中や河川に沈設した実験記録をVTRを交え紹介した。数か月後、普通コンクリートと環境活性コンクリートでは附着藻類や魚の集まりに顕著な差異が見られ、受講者もその様子を熱心に拝見していた。今後、川から海に至る様々な場所で漁礁に用いることにより、餌料場効果や蛸集効果等が期待され、我々土木技術者もまさに目からうろこであった。(15:15~15:45)



中西敬氏による講演

5 番目の講演は、(株)ケーティービー技術営業部長の仁科一義氏で、「高耐久 P C 構造物の建設に向けて・エポキシ樹脂全素線塗装型 P C 鋼より線」と題し、P C 構造物のグラウト施工における不具合を解消するための P C 鋼より線の紹介がなされた。

エポキシ樹脂 P C 鋼より線は橋梁の内外ケーブルや補強用外ケーブル、建築物、斜面のアンカー材など様々な箇所で使用されていることや多数ある種類等が紹介された。P C 鋼より線は、鋼材のより本数からなり、高耐久性の観点からエポキシ樹脂の被膜は、より線 1 本ごとに膜厚を確保した後全体をより戻す全素線塗装型が望ましいとの説明があった。(15:45 ~ 16:15)



仁科一義氏による講演

6 番目の講演は、(社)プレストレストコンクリート建設業協会会員であり、高知県橋梁会の理事でもある岡本圭吾氏で、「第 1 回やさしい P C 橋の設計」と題し、P C 橋の概要説明がなされた。

プレテンション方式とポストテンション方式の

違いや比較、P C 鋼材の種類、定着具の主な種類等の説明がされた。

次回の予定である床板の設計条件についても一部説明がなされた。この講演は続きがあり、順次行なう予定である。(16:15 ~ 16:50)



岡本圭吾氏による講演



司会をする西川準二理事

最後に吉田副会長から、本日の講演者の皆様へのお礼と次回見学会、8 月の研修会開催等の報告がされ研修会を終了した。



吉田幸男副会長による閉会の挨拶

通常総会（17：00～17：25）

研修会終了後、高知県橋梁会の通常総会が開かれ、冒頭の説明通り滞りなく終了した。

法人会員 27 社のうち 19 社から出席があり、総会が行われた。役員では、構造メンテックの安見和夫氏が退任された。

懇親会（17：30～19：30）

通常総会終了後、同会館の平安の間で、講師の方々を招き懇親会が開催された。参加者は 44 名であった。



講師をされた中西敬氏，右城会長，昨年 12 月に講師をしていただいた望月雄二氏



懇親会に先立ち右城会長から挨拶



中締め挨拶をする高知県橋梁会顧問の西岡南海男氏



乾杯の音頭をとられた村山保名誉会員